

# 外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/16

## 各種材料を吟味する週に

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➡	引き続き方向感を模索 予想レンジ: 79.00 ~ 82.40 円	2-4
<a href="#">カナダ/円</a>	➡	商品価格と加CPIに注目 予想レンジ: 81.80~ 85.70 円	5-6
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>	一週間の予定を一覧で表示		7-8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD/JPY

## ドル/円 5/9~13の主な推移

※4時間足



5/9 Monday	東京市場から欧州市場にかけては80.50~80.84円でのみみ合い。しかし、欧州市場中に格付け会社S&Pがギリシャの格付けを従来の「BBマイナス」から「B」へ2段階引き下げ、見通しを引き続きネガティブとすることを発表したことを受け、米国市場で米国債利回りが低下すると、ドル/円は80.19円までドル安が進行した(①)。
5/10 Tuesday	朝方に前日安値を割り込み、80.15円の安値をつけた。しかし、東京市場午後に入り、米国債利回りが上昇したことなどを背景にドル高・円安が進行。さらに、一部報道が「ギリシャへの新支援策が6月に明らかになる」と伝えたことでユーロ/円が大きく上昇すると、ドル/円も連れ高となり80.87円まで値を上げた(②)。この報道がギリシャによって否定されるとユーロ/円が反落し、ドル/円も上げ幅を縮小したが、米国市場でNYダウ平均が上昇し、翌日行われる米10年債入札を警戒した債券売りなどを背景に米国債利回りが上昇すると、ドル/円はジリ高となり、NY市場の引けにかけて80.90円まで上昇した。
5/11 Wednesday	前日のドル高・円安の流れを引き継ぎ、朝方に81.08円まで上昇したが、その後は上値が重く夕方にかけてジリジリと80.60円まで値を下げた。ただ、18時30分に発表された英四半期インフレレポートやその後のキング英中銀総裁の発言などから英国の早期利上げ観測が意識され、ポンド/円が急騰すると、ドル/円も連れ高となり、81.32円まで上昇した(③)。その後、原油価格の下落を背景に資源株主導でNYダウ平均が下落し、米国債利回りが低下すると、ドル/円は80.69円まで値を下げたが、米国債利回り低下が一服した後は、対ユーロでのドル高に連れてドル/円でも81.00円前後までドル高が進んだ。
5/12 Thursday	東京市場序盤は、仲値公示に向けたドル需要などを背景に81.34円まで上昇した。しかし、81.30円台では上値が重く、日経平均が午後には下げ幅を拡大すると、ドル/円も軟化。原油やNYダウ先物、欧州株も軟調に推移し、クロス円が下落すると、ドル/円も80.73円まで値を下げた。その後、クロス円が反発した他、21時30分に発表された米4月生産者物価指数が前年比+6.8%と予想(+6.5%)を上回る伸びとなったことで発表直後のドル/円は81.17円まで上昇したが、上値は重く、対ユーロでのドル高が進むに連れて80.70円まで値を下げた(④)。ただ、引けにかけては米国債利回りの上昇等に連れて81.00円前後まで値を戻した。
5/13 Friday	枝野官房長官が東電賠償問題について民間金融機関の協力を求めるとの意向を示したことを受けた日本株の下落や、タリバンがパキスタンで自爆テロを起こしたことを受け、クロス円が下落すると、ドル/円も連れて80.34円まで値を下げた(⑤)。下げ一服後はジリジリと値を戻したものの、21時30分に発表された米4月消費者物価指数が前年比+3.2%(予想:+3.1%)とほぼ予想通りの結果になると、米国債利回りが低下し、ドル/円も上げ幅を縮小した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## USD / JPY

## 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

## 下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

## 今週の見通し

今週のドル/円は先週に続き、各種材料を確認しながら方向感を模索する展開になりそうだ。

米国では、16日に5月ニューヨーク連銀製造業景気指数や3月対米証券投資、17日に4月住宅着工件数および4月建設許可件数、4月鉱工業生産、18日に米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録、19日に週次の新規失業保険申請件数や4月中古住宅販売件数、5月フィラデルフィア連銀景況指数など、20日を除いて毎日のように主要な経済イベントが予定されており、ドル/円相場の手掛かり材料は豊富と言える。これらの結果に米経済の強さを示す良好なものが出ればドル高、予想を下回るものができればドル安で反応するものとみられる。また、今週は要人発言の機会も多い。3月下旬から4月上旬に比べると手掛かり材料視される場面は少なくなってきてはいるが、発言内容には気を配っておきたいところだ。早期金融引き締め観測を後押しするような発言があれば、ドル買い要因となるだろう。

この他、足元の相場では米経済だけでなく、ギリシャやポルトガルなどユーロ圏の重債務国の財政再建を巡る問題も中心テーマの一つとなっており、これを手掛かりにユーロが対ドル、対円で大きく動けば、ドル/円相場も上下動するだろう。波乱要因として、関連報道と、それを受けたユーロ/ドル、ユーロ/円の動きも注視したい。さらに、先週のように東電の賠償問題に絡み、日本株が大きく動いたり、値動きの激しい状態が続いている商品相場で急激な変動があれば、クロス円経由でドル/円相場が大きく動く可能性がある点も留意しておくべきだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 79.00~82.40円)

## USD/JPY

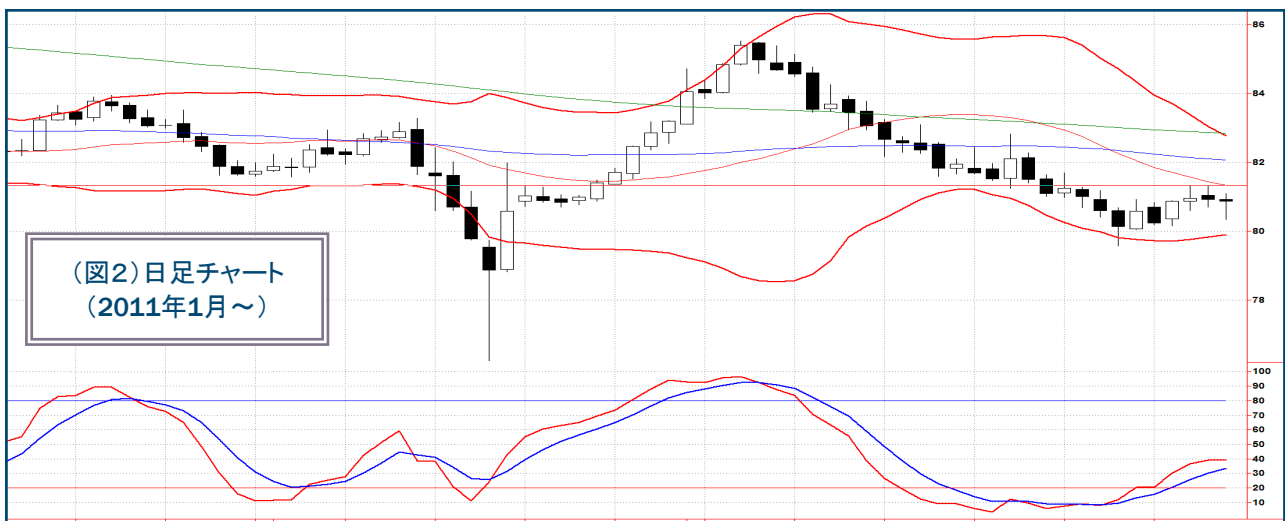
## テクニカル分析

●ドル/円 5/13週足引値:80.88円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値81.34円～安値80.15円と1円19銭の狭い値幅の一週間となった。

先週は80円台後半で取引が始まったが、戻り高値の81円30銭近辺は重く、下値の80円10銭は底堅いという展開の1週間であった。週末の引値80.88円は、20日線(81.32円、5/13)、200日線(82.84、5/13)、60日線(82.07円、5/13)、40日線(82.20円、5/13)をすべて下回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(5/13時点)は上限が82.78円、下限が79.89円であり、バンドの上限は大きく下落し、下限は横ばいから緩やかに上昇している。

週足チャート(図1):先週は5週間ぶりに陽線が出たが、先週の値動き全て先々週の中に入り、中途半端な立ち位置、との印象だ。先週は一応陽線でもあるので、先週の高値を超えて上昇するかどうかを見極めたい。日足チャート(図2):先週は値動きが鈍い一週間だったが、買い方と売り方の双方が拮抗する形となった。今週は値幅が出ることを期待したい。5日線(80.77円、5/13時点)は上向き加減であることや、ボリンジャーバンド下限が緩やかに上向きであること、ストキャスの先行線(赤い線)が上向きであることから、上昇の方向に若干の分があるかもしれないが、それでも82円を超えて定着するような本格的上昇にはなりにくいと思われる。79.50～82.00円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。

# CAD/JPY

## カナダ/円 5/9～13の主な推移



<p><b>5/10</b> Tuesday</p>	<p>一部通信社が「ギリシャに対する新たな支援策が6月にも明らかになる」と報じた事を受けてギリシャの債務再編に対する懸念がやや後退しユーロ/円が上昇するとカナダ/円もこれにつれて上昇した。さらに、その後一時下落していた原油価格が上昇に転じた事や、欧米株が軒並み上昇した事を背景にリスクを積極的に取る動きが強まりカナダ/円は84.43円まで上昇した。(①)</p>
<p><b>5/11</b> Wednesday</p>	<p>英中銀(BOE)インフレレポートを受けて英国の早期利上げ観測が高まりポンド/円が上昇すると、クロス円が全面高となり、カナダ/円は85.27円の高値を付けた。しかしその後、在庫の増加を嫌気してNY原油先物価格が100ドルを割り込んで大幅安となり、NYダウ平均株価も一時180ドルを超える下落となった。株安・原油安を背景にリスク回避ムードが高まると、カナダ/円は83.75円まで大幅下落となった。(②)</p>
<p><b>5/12</b> Thursday</p>	<p>NY原油先物が95ドル台に続落となり、時間外のNYダウ平均先物や欧州株も軟調に推移した事を受けてリスク回避ムードが継続すると、カナダ/円は83.28円まで下落した。しかしその後はNY原油先物や現物のNYダウ平均株価が上昇に転じた事からカナダ/円も買い戻され、84.14円まで反発した。(③)</p>
<p><b>5/13</b> Friday</p>	<p>米4月消費者物価指数コア前年比が予想通りの+1.3%となった事を受けて米国のインフレ懸念が後退すると、米長期金利が低下しドル/円が下落。ドル/円下落につれてクロス円は全面安となった。さらに、NYダウ平均株価が100ドル超の下落となり、WTI原油先物価格も97ドル台に下落した事を背景にリスク回避の動きが強まり、カナダ/円は82.80円の安値を付けた。(④)</p>

### 上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり  
→リスクを取ることに積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

### 下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## 今週の見通し

先週のカナダ/円相場は82.80円～85.27円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約0.1%（9銭）の下落と、ほぼ寄り引け同値に近い形となった。この間、WTI原油先物価格は終値ベースでは1.2%の上昇となったが、乱高下するなど不安定な値動きが続いており、カナダ/円相場を圧迫する場面が見られた。今週は20日（金）に加4月消費者物価指数の発表が予定されており、商品価格の動向と合わせて注目されよう。事前予想では前年比で+3.4%と、加中銀（BOC）のインフレ目標である1-3%を上回る水準でややインフレが加速すると見られている。ただ、消費者物価発表前に、商品価格が一段と下落しているようだと言われ、インフレ期待は高まりにくく、金利先高観によるカナダドル買いは限定的となるだろう。一方で、原油を中心に商品価格が持ち直す動きとなる中で、インフレ加速が示されれば、早期利上げ観測につながり、カナダドル買いが強まる事になりそうだ。（神田）

（予想レンジ：81.80～85.70円）

## テクニカル分析



●カナダ/円 5/13週足引値：83.41円（日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開）

カナダ/円は68.35円（2009/5/13安値）から94.45円（2010/04/26高値）へと26.10円上昇したが、その後は安値78.40円（2010/08/24）⇒高値85.58円（3/10）⇒安値77.60円（3/17）⇒高値89.49円（4/08）となっている。取引値は200日線（82.80円、5/13）よりも上値に位置しているが、60日線（84.79円、5/13）や20日線（84.95円、5/13）を下回っている。ボリンジャーバンドは5/13現在、上限87.23～下限82.67円であり、バンドは上限、下限ともに下落している。

4/08に直近高値の89.49円を見てから下落の流れとなっている。先週は60日線がしっかり上値の抵抗線となった。下値は200日線に支えられているが、もう一段の下落があるかどうか焦点であり、意外に81～85円のレンジに入っているのかもしれない。

上値ポイントは①84.79円（60日線、5/13段階）、②84.95円（20日線、5/13段階）であり、下値ポイントは①82.80円（200日線、5/13段階）、②82.30円（5/05安値）である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (5/16~19)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/16 (月)	08:50		(日) 3月機械受注 [前月比]	-2.3%	-10.2%
			(日) 3月機械受注 [前年比]	+7.6%	-8.8%
	18:00		(ユーロ圏) 4月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.8%	--
	18:00		(ユーロ圏) 3月貿易収支	-15億EUR	--
	21:30	○	(米) 5月ニューヨーク連銀製造業景気指数	21.70	20.00
	22:00	○	(米) 3月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+269億USD	--
		○	(米) 3月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+977億USD	--
	23:00		(米) 5月NAHB住宅市場指数	16	17
5/17 (火)	10:30	○	(豪) RBA議事録	--	--
5/17 (火)	17:00		(南ア) 4月消費者物価指数 [前年比]	+4.1%	+4.4%
	17:30	◎	(英) 4月消費者物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.7%
		◎	(英) 4月消費者物価指数 [前年比]	+4.0%	+4.1%
	17:30		(英) 4月小売物価指数 [前月比]	+0.5%	+1.0%
	18:00	◎	(独) 5月ZEW景況感調査	7.6	5
	18:00		(ユーロ圏) 5月ZEW景況感調査	19.7	--
	20:00		(南ア) 3月実質小売売上高 [前年比]	+5.6%	+6.3%
	21:30	◎	(米) 4月住宅着工件数	54.9万件	57.0万件
	21:30	○	(米) 4月建設許可件数	59.4万件	59.0万件
	22:15	○	(米) 4月鉱工業生産 [前月比]	+0.8%	+0.4%
22:15		(米) 4月設備稼働率	77.4%	77.6%	
5/18 (水)	07:45	○	(NZ) 第1四半期生産者物価 [前期比]	+0.2%	--
5/18 (水)	17:30	◎	(英) BOE議事録	--	--
	17:30	◎	(英) 4月失業率	4.5%	4.5%
	17:30	◎	(英) 4月失業保険申請件数	+0.07万件	+0.1万件
	18:00		(ユーロ圏) 3月建設支出 [前月比]	-0.7%	--
	21:30		(加) 4月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	--
	21:30		(加) 3月卸売上高 [前月比]	-0.6%	+1.5%
	27:00		(米) FOMC議事録(4月27日分)	--	--
5/19 (木)	08:50	○	(日) 第1四半期GDP・一次速報 [前期比]	-0.3%	-0.5%
○		(日) 第1四半期GDP・一次速報 [前期比年率]	-1.3%	-2.0%	
5/19 (木)	13:30		(日) 3月鉱工業生産・確報 [前月比]	-15.30%	--
			(日) 3月鉱工業生産・確報 [前年比]	-12.90%	--
	17:30	○	(英) 4月小売売上高指数 [前月比]	+0.2%	--
		○	(英) 4月小売売上高指数 [前年比]	+0.9%	--
	21:30	◎	(米) 5/14までの週の新規失業保険申請件数	43.4万件	--
	21:30	○	(米) 4月中古住宅販売件数	510万件	520万件
			(米) 4月中古住宅販売件数 [前月比]	+3.7%	+2.0%
	21:30	◎	(米) 5月フィラデルフィア連銀景況指数	18.5	20.5
21:30		(米) 4月景気先行指数 [前月比]	+0.4%	+0.1%	

## 経済指標カレンダー (5/20)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/20	未定	○	(日) 日銀金融政策決定会合	0.1%	--
(金)	15:00		(独) 4月生産者物価指数 [前年比]	+6.2%	+6.0%
	17:00		(ユーロ圏) 3月経常収支	-72億EUR	--
	20:00	○	(加) 4月消費者物価指数 [前月比]	+1.1%	+0.5%
		○	(加) 4月消費者物価指数 [前年比]	+3.3%	+3.4%
	21:30	○	(加) 3月小売売上高 [前月比]	+0.4%	+0.9%
	23:00		(ユーロ圏) 5月消費者信頼感・速報	-11.6	--

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com